



# 田隈中通信

## 【学校教育目標】

心豊かで、主体的に学び、たくましく生きる生徒の育成

大牟田市立田隈中学校

R5. 5. 18 (木)

発行 藤井 清午

第 3 号

## 【中間考査が始まります】

- 来週、22日(月)・23日(火)に中間考査が行われます。今年度初めての定期考査です。もうテスト勉強はスタートしていますか。各教科の目標は決まっていますか。

もし、「どのように学習したらよいか分からない」と悩んでいる人がいたら、担任の先生や教科の先生、友だちに相談してみましょう。やり方が分からないまま学習に取り組んでも、効率が悪くなりますので、早めに確認した方が良いでしょう。



## 【なぜいろいろな教科や学習内容を勉強するのだろう】

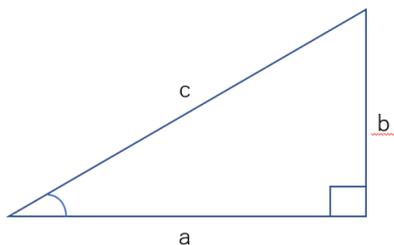
- 昨年の11月頃、次のような投稿がSNSで注目を集めました。目にした人はいるでしょうか。一部載せます。

【誤】 「三角関数は社会に出たら使わない」



【正】 「三角関数ができないと、それを使う職業（そして人生）を選べなくなる」

これは、ある作家・マンガ原作者の方がSNSに投稿したものだそうです。



三角関数というのは、高校の数学で出てくるので、まだ皆さんは習っていません。だから、「歴史の年号は…」 「国語の古文は…」 というように、他のものに置き換えてもいいと思います。

この「〇〇は、社会に出たら使わない」というのは、よく聞く言葉です。この言葉の後には、「だから、学校でそれを勉強しても意味が無い」という言葉がつながるのでしょう。

この投稿者はその意見に反論し、『三角関数を避けて通ってきた人は、三角関数を使わない職業（人生）しか進めない。つまり、自分で自分の進路選択の幅をせばめてしまっているのだ。』ということを主張したいのだと思います。実際に三角関数は、みんなが気付かないところで家電やスマホ、ゲーム等、ものづくりのいろいろな場面で数多く活用されていますし、それを用いる職業も数多くあります。

さて、話は変わりますが、今年の夏、テレビ朝日の「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」という番組で、姫路城の回が放送されました。



全国のお城のことに大変詳しい小学生の男の子が、城郭研究家（お城を研究している学者）の千田嘉博（せんだ よしひろ）教授と二人で姫路城をめぐり、姫路城の秘密を解き明かしていく内容でした。私は歴史が大好きなので興味を持って見ていましたが、番組の最後でその男の子が千田教授に次のような質問をしました。

「城郭研究家になるには、どうしたら良いですか？」

すると千田教授は、

「お城を研究するには、

- ・天守を研究するために建築史
- ・石垣は土木工学的につくられているから工学
- ・お城は遺跡なので考古学
- ・絵図を分析するのに歴史地理学
- ・古文書を読むために文献史学



が必要です。この五つの分野を総合しないとお城の研究はできません。だから、大学ですごく広い視野を持って勉強して『お城の本当の姿をつかむんだ』と思って研究していくと城郭研究家になれます。」と教えてくれました。

千田教授が話した内容を中学の教科に当てはめてみると、国語、社会、数学、理科、技術にまたがっています。つまり、お城の研究をするのに、歴史の勉強だけでなく、他のいろいろな学習が必要になってくるということです。この男の子がもし、社会以外の教科を苦手だからと避けていくなれば、将来城郭研究家になるのは難しいということになるのです。

将来の進路選択の幅を広げ、人生を豊かにする教養を身に付けるには、中学生のこの時期に「必要」とか「必要でない」とか勝手に決めつけるのではなく、いろいろな教科をまんべんなく学習しておくことが大切と言えるでしょう。何がみんなにとって必要になってくるのか、まだ分からないのですから。

とりあえず今は、目の前の中間考査に集中し、国・社・数・理・英に全力を注いでみましょう。



